



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和2年7月31日

発行者 校長 芝田 智昭

No. 351 8月号

前を向いて

副校長 水野 美津子

7月1日から金管バンドクラブの練習が始まりました。練習は7時50分開始です。指導する教員は、三密を避けるために3つの教室や体育館の窓を開け、子供たちがすぐに練習に取り組めるように準備をします。休業期間中は練習ができずにいたので、初めはなかなか音も上手く出ていませんでした。しかし、楽器の音が重なり合う最近の力強いメロディを聴いていると、子供たちの逞しさを感じます。本校のPTA顧問である黒木さんが、朝からホルネットの指導に来てくださっているのも本当にありがたいことです。

6年生をリーダーに懸命に練習をしている姿を見ると、このような状況下でも子供たちは、一歩ずつ前を向いて進もうとしていると感じます。例年、春季運動会、社明パレードでの発表を終えると6年生は引退なのですが、今年度は運動会が10月31日に延期になったので、引継ぎは2学期になります。それまで5年生に思いと技術を伝え、尾久西小の伝統である金管バンドクラブのバトンを渡して欲しいと思います。

さて、新型コロナウイルス感染防止のため、中学や高校でスポーツの大きな大会が中止となっています。多くの指導者は「競技者は目標があるから、厳しい練習にも耐えることができる。大会がない中で目標を与えるのは至難の業である。」と言っています。あるサッカーの強豪校である監督が、練習ができない期間、選手たちに野菜づくりをさせていたというニュースを見ました。監督は「部活の最大の目的は選手の人間性を磨くこと。違う視線で物事を進めていけば子供たちは成長すると思った。大学や社会に出たときに少しでも通用する取組になればいいと思い野菜作りをさせた。」と言っていました。リーダーを任された副キャプテンは、責任感から自ら率先して野菜づくりについて調べたり、作業を行ったりしました。その姿を見て、後輩たちも前向きに取り組むようになったといいます。そして、部員が一体となって作業に打ち込んだことで、わずか3か月で初めての収穫を迎え、達成感を感じたということです。そして、副キャプテンはこの経験からチームを引っ張ることを強く意識するようになったそうです。

今年度は、様々な行事が中止や延期となっています。最後の小学校生活となる6年生にとって少しでも思い出に残る学校生活となるよう、そして、未来につながる学習、活動になるよう教職員も日々工夫して教育活動を進めています。

1学期は、教材の受け取りや分散登校など保護者、地域の皆様には多くのご理解とご協力をいただきました。ありがとうございました。2学期もよろしく願いいたします。